

九州大学総合研究博物館 ニュース

The Kyushu University Museum News

九州大学総合研究博物館に期待するもの

九州大学
総 長

梶山 千里

杉岡前総長はじめ多くの方々のご尽力で、平成12年4月に発足した九州大学総合研究博物館は、この4月から3年目の活動に入りました。設立当初は、どの組織でも直面するような様々な困難があったことと思われませんが、湯川館長や専任教官、事務職員のチームワークによって立ち上げに成功し、この2年間で多くの公開展示がなされ、資料部や協力研究員制度などの組織が確立し、学芸員資格取得のためのカリキュラムが完成したことは誠に嬉しい限りです。これも学内外の皆様方のご理解とご協力の賜と感謝申し上げます。

近年、大学による地域への貢献が様々な形で期待されています。そうした中で、大学博物館は地域に開かれた大学の窓として、その存在が大いに注目され、期待されるどころです。大学博物館による地域への貢献としてもっとも具体的な活動の一つは、学内で行われている多種多様な教育研究の内容や成果を、公開展示することです。もちろん、公開展示は学会での発表とは異なり、きわめて分かりやすく行うことが当然の条件です。それによって、地域の方々に最新の教育研究情報を提供し、その情報を総合学習や生涯教育など様々な場面で活用していただくことができます。その結果、九州大学への親しみと理解を深めていただ

けるとともに、本学の魅力を学外に大きくアピールできることとなります。

そのためには、大学博物館の呼びかけに応じて、本学の教育研究に携わる個人やグループが、規模の大小にかかわらず、あらゆる展示機会を捉えて積極的に競って成果を発表して下さることを期待しています。大学はそのような積極的な姿勢を支援していきたいと考えています。

本学の元岡地区への移転に伴い、博物館がその中心的な建物となることが予定されています。それまでに博物館が様々な経験と成果を蓄積し、完成時には、本学に収蔵されている700万点余の貴重な標本と資料を包含する、名実ともに世界的な大学博物館になることを期待しています。

3年目に入った九州大学総合研究博物館

九州大学総合研究博物館
館 長

湯川 淳一

平成12年4月に発足した九州大学総合研究博物館は、この4月から3年目の活動に入りました。現在、博物館は箱崎キャンパスのいくつかの建物に分散、仮住まいしており、公開展示は記念講堂の一部や図書館、学外の施設などで行っている状態です。しかし、杉岡前総長や梶山現総長はじめ多くの方々のご尽力により、この2年間で専任教官も充実し、博物館の基本的な活動を立ち上げることができました。また、70余名の学内兼任教官

の皆様にも標本や資料のデータベース化や展示の企画など様々な形でご協力を頂いております。これらの方々に厚くお礼を申し上げます。

この間、2回の公開展示と2回の特別展示を開催することができました。また、本年度からは、九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト(P&P)の採択課題の研究成果を開学記念日を挟んだ一定期間に展示公開することになりました。さらに、初めての試みとして、農学分野の卒業論文発表会を博物館でポスター方式で一般公開させていただきました。これらの公開展示に参加して下さった多くの教職員、院生、学生の方々に深謝申し上げます。この夏休みには、基礎および応用植物学分野の公開展示が、福岡市立少年科学文化会館で開催される予定です。まもなく、福岡空港のブースでも研究成果が展示されますし、記念講堂では、本学の所蔵標本の一部の展示が始まりました。ぜひ、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

教科書にある一般的な展示はどの博物館でも見られます。しかし、多くの研究者に支えられて

いる大学博物館では、大学での研究成果を分かりやすく社会に還元する必要があると考えています。この考え方にご賛同いただき、研究内容を社会に積極的に発表して下さる方々を博物館は全力で支援させていただきます。博物館の今後の展示企画を大いにご活用下さい。

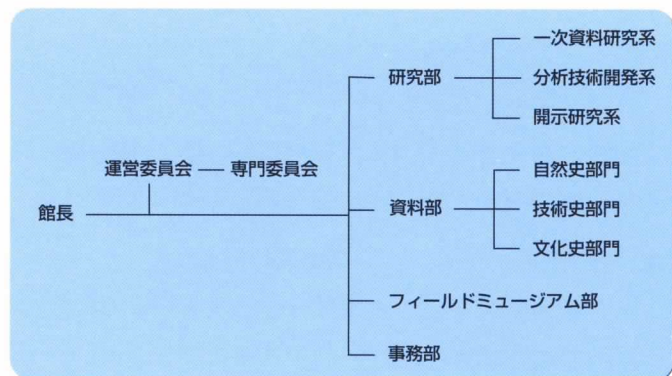
この度、九州大学総合研究博物館が、いわゆる、博物館相当施設に認定されましたので、本年度から学芸員資格取得のための理系博物館実習を学内でも実施することが可能になりました。学芸員を目指す院生や学生の受講が増加するものと予想しています。

2年間の活動を通して、博物館の存在は学内の多くの方々に認知されてきたと自負しています。しかし、学外へのアピールはまだまだです。博物館は、本学にある標本や資料を一元化してアクセスしやすいように務めますとともに、研究成果の展示公開など博物館活動を通じて、学外の人々との交流を深めたいと願っています。大学博物館の役割をご理解いただき、今後も積極的に博物館をご支援下さいますようお願い申し上げます。

博物館の組織

運営委員会委員

湯川淳一(総合研究博物館館長、委員長)
 中野仁雄(副学長、副委員長)
 有川節夫(附属図書館長)
 松尾文碩(情報基盤センター長)
 佐伯弘次(人文科学研究院)
 田中良之(比較社会文化研究院)
 山野善郎(人間環境学研究院)
 植田信廣(法学研究院)
 藤井美男(経済学研究院)
 廣田 稔(言語文化研究院)
 島田允堯(理学研究院)
 木村正人(数理学研究院)
 古野純典(医学研究院)
 名方俊介(歯学研究院)



正山征洋(薬学研究院)
 内野健一(工学研究院)
 金子邦彦(システム情報科学研究院)
 佐々木一成(総合理工学研究院)
 中園明信(農学研究院)
 畠山鎮次(生体防御医学研究所)
 柏木 正(応用力学研究所)

藤井丕夫(機能物質科学研究所)
 浦辺洋太郎(理学部等)
 総合研究博物館: 岩永省三
 松隈明彦
 中牟田義博
 中西哲也
 宮崎克典

活動状況(展示関係)

進化の舞台の主演と脇役
-地球上で繁栄する多様な昆虫たち、人とのかわり-



九州大学総合研究博物館 特別展示


期間：平成13年3月19日(月)～5月18日(金)
土日祝日および、3月24日(土)～4月10日(火)は休館
ただし、4月29日(日)、30日(月)の土日、5月11日(金)の開学記念日は開館
時間：10時00分～17時00分
場所：九州大学記念講堂3階博物館展示室およびロビー
問い合わせ先：九州大学総合研究博物館事務室 TEL.092-642-4252

九州大学総合研究博物館 特別展示
地球惑星科学への招待
-地球の過去・現在・未来を見つめて-

地球惑星の歴史をかたる標本の展示
太陽系のはじまりを示す隕石 火星隕石
世界最古の岩石 エベレスト山頂から採取された海の地層
九州の震源分布模型 深海底熱水沈殿物
アンモナイトなどの化石標本 高辻吉鉱物標本(日本三大鉱物標本)

地球惑星についての先端研究をパネルで紹介
太陽系惑星の起源 地殻変動 ヒマラヤ 地球流体 オゾンホール
エルニーニョ 気候変動 宇宙天気 太陽と地球の相互作用
地球史とテクトニクス 生命の起源と進化・絶滅 鉱床・鉱脈の形成

期間：平成13年 7月16日(月)～9月14日(金)
土・日・祭日と8月13日～17日は休館
時間：10時00分～17時00分
場所：九州大学記念講堂3階 博物館展示室とロビー
入場無料
問い合わせ先：九州大学総合研究博物館事務室
TEL.092-642-4252



インターネット：<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp>

平成13年3月19日～5月18日

特別展示「九州大学所蔵学術標本」を記念講堂2階にて、特別展示「進化の舞台の主演と脇役」を記念講堂3階ロビーおよび展示室で行いました。

特別展示「九州大学所蔵学術標本」は化石標本、鉱物標本、植物標本、古人骨資料など、九州大学が所蔵する学術標本の一部を展示し紹介したものです。

特別展示「進化の舞台の主演と脇役」は地球上で繁栄する多様な昆虫たちと人との関わりを農学研究院、熱帯農学研究センター、比較社会文化研究院、理学研究院、医学研究院で行われているこれまでの研究を通じて紹介したものです。展示内容の詳細は九州大学総合研究博物館のホームページ(<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp>)の中のインターネットミュージアムでご覧いただけます。

平成13年7月16日～9月14日

特別展示「地球惑星科学への招待 -地球の過去・

現在・未来を見つめて-」を九州大学記念講堂にて行いました。本展示は理学研究院地球惑星科学部門、比較社会文化研究院、工学研究院地球資源システム工学部門、応用力学研究所で行われています研究を通じて地球惑星科学の現状を紹介したものです。展示内容の詳細は九州大学総合研究博物館のホームページ(<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp>)の中のインターネットミュージアムでご覧いただけます。

平成13年12月18日～平成14年1月27日

公開展示「石炭・金・地熱 -九州の地下資源-」を福岡市博物館にて開催しました。本展示は工学研究院地球資源システム工学部門でこれまで行われてきました調査研究、社会に対する貢献等を同部門が所蔵する多くの資料や標本を通じて紹介したものです。展示内容の詳細な解説は53頁の冊子として発行いたしました。冊子をご希望の方は博物館事務室へご請求頂ければ無料で送らせて頂きます。なお、福岡市博物館での展示に先立ち、

九州大学総合研究博物館 公開展示
九州大学の研究 過去・現在・未来

石炭・金・地熱

-九州の地下資源-

平成13年
12月18日(火)
↓
平成14年
1月27日(日)

福岡市博物館 [特別展示室B] 入場無料
開館時間/午前9時30分～午後5時30分(入館は午後5時まで)
休館日/毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日から1月4日まで)

主催/九州大学・福岡市博物館
後援/福岡県教育委員会・福岡市教育委員会

九州大学総合研究博物館 特別展示
九州大学教育・研究の最前線
-第1回P&P研究成果一般公開-

主な内容
新しいガン分子標的治療 キノコが化学兵器を分解した
ハイブリッド型人工肝臓の開発 昆虫と環境保全 ほか

※土曜日・日曜日は、会場にて各研究グループの説明者による展示解説を行います。

期間 **5月8日(水)～6月7日(金)**
5月26日(日)および毎週月曜日は休館

開館時間 10時00分～17時00分

場所 九州大学記念講堂
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

入場無料

●同時開催
九州大学所蔵標本・資料展

これまで一般に公開されることのなかった、
大学に収蔵される学術標本。

数多くの新しい発見、研究業績を生み出し、
実際に研究に使われてきたきた
証拠となる標本を展示公開
いたします。

共催
総合研究博物館 / 九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト専門委員会

お問い合わせ 九州大学総合研究博物館事務局 Tel. 092-642-4252
http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/

同様の展示を10月15日～11月15日に記念講堂
で学内にて行いました。

平成14年2月23日～2月24日

九州大学農学部農学分野の公開卒業論文発表会
を記念講堂にて行いました。本発表会は九州大学
で行われています研究の一端を、卒業研究という
ものを通じて一般の方々にもご覧いただきたい
と願って開いたものです。発表する学生たちに取り
ましても晴れ舞台となり、活発なやりとりが行
われました。

平成14年5月8日～6月7日

特別展示「九州大学教育・研究の最前線－第1回
P&P研究成果一般公開－」を開催しました。九州
大学では、毎年とくに重点的に行う研究を選び、
九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロ
ジェクト(P&Pと略して呼んでいます)として特別
な予算を配分し、九州大学における教育・研究を
支援しています。本展示は平成9年～12年度に

採択され、平成10年～13年度に終了しました研
究のうち、10課題について、成果の要約や抜粋を
パネルを中心として展示したものです。まさに九
州大学で行われています教育と研究の最前線を
紹介する内容となりました。

平成14年5月8日～6月7日

博物館平常展示を前記特別展示と並行して記念
講堂で開催しました。本展示は九州大学が所蔵し
ます標本・資料を紹介するもので、特別展示終了
後もそのまま展示し、博物館職員が対応できる時
間帯であれば、博物館事務室に申し込んで頂き利
用して頂こうというものです。とくに、小・中・高
校などの団体見学を歓迎いたします。現在、考古
学資料、炭坑関係資料、貝類標本、昆虫標本、植物
標本などを展示しています。見学のご希望があれ
ば博物館事務室へご連絡ください。

活動状況(その他)

平成13年6月3日～20日 米国の大学博物館視察。総合研究博物館の湯川館長、中西助教授、小島助手、城戸専門職員の4名で米国の大学博物館(ミシガン大学、フロリダ大学、エール大学、ペンシルバニア大学)、アメリカ自然史博物館、スミソニアン博物館などの視察を行い、博物館の運営、組織、予算、コンセプト、マーケティング、展示、収蔵などの様々な情報を収集してきました。

平成13年6月25日 北海道大学で第4回国立大学博物館等協議会総会が開かれ、湯川館長、岩永教授、宮崎助教授、城戸専門職員の4名が出席しました。

平成13年11月27日 鹿児島大学に新たに大学博物館ができ、その開所式に湯川館長、中西助教授、小島助手、城戸専門職員が参加しました。

平成13年11月～12月 第2回九州大学所蔵標本アンケート調査を行いました。本アンケート調査は11月5日に開かれました第1回資料部主任会議で行うことが要望されたもので、総合研究博物館が元岡地区に移転し博物館の建物ができた際、現在管理されている部局が博物館での収蔵を希望される標本について行っています。ここにあげられていない標本につきましてもさらに調査を行い、移転に際しできるだけ適切な資料の収蔵ができるように努めていきたいと考えています。

平成14年1月16日 九州大学が博物館相当施設に認定されました。これは総合研究博物館が、学芸員資格取得のための博物館実習を開講できるようにと申請してきたもので、博物館相当施設の認定が出たことにより、平成14年度から、九州

大学でも博物館の専任教官が中心となり博物館実習を開講しています。

平成14年2月7日～8日 大学博物館のデータベース・ワーキンググループの集会在東京大学で開かれ、宮崎助教授と小島助手が参加しました。

平成14年2月18日 同日開かれました博物館運営委員会で湯川淳一農学部教授が総合研究博物館館長に再選されました。任期は平成16年3月31日までの2年間です。

平成14年2月18日 同日開かれました博物館運営委員会で協力研究員制度が認められました。協力研究員は、現在九州大学に所属されてはいないが、国立、公立および私立の教育研究機関に所属、または所属した教育職員および研究者の方々になって頂き、博物館の活動にご協力頂く制度です。

平成14年4月1日 開示研究系の助手として三島美佐子氏が着任されました。

会議記録

平成13年

- 1月25日 第4回総合研究博物館運営委員会
- 2月27日 第5回総合研究博物館運営委員会
- 4月27日 第6回総合研究博物館運営委員会
- 10月30日 第7回総合研究博物館運営委員会
- 11月5日 第1回総合研究博物館資料部主任会議

平成14年

- 2月18日 第8回総合研究博物館運営委員会
- 4月26日 第9回総合研究博物館運営委員会

新人紹介



三島美佐子(開示研究系助手)
専門分野:植物系統進化学

千葉県出身。富山大学、東京都立大学でバラ科ワレモコウ連の種分化研究を行う。九州大学および基礎生物学研究所において、ポスドク

として、植物のゲノム進化、特に倍数性進化に関する研究に従事。現在の研究テーマは、倍数体化初期のゲノム動態の解明、および野生倍数体の地理的分布とゲノム構成に関する研究。最近では特に中国東北部および沿海州を含む極東アジア地域での野外調査を実施している。今後は、コンパクトだが質の高い九州大学所蔵の植物標本を整理しつつ、それらを生かした研究—例えば共進化や赤道近辺の植物の多様性の解析—も開拓していきたいと考えている。

第2回九州大学所蔵標本アンケート調査結果（平成13年11月実施）

標本・資料等の種類あるいは名称	乾燥標本		液浸標本	
	整理済	未整理	整理済	液浸標本
人文科学研究院				
考古遺物	1,045	4,585	0	0
(小計)	1,045	4,585	0	0
比較社会文化研究院				
昆虫標本	45,000	800,000	50	2,000
地質学標本	9,381	5,000	0	0
人骨標本	3,200	200	0	0
旧玉泉館収蔵考古資料	5,600	400	0	0
(小計)	63,181	805,600	50	2,000
理学研究院				
植物標本（福岡植物研究会標本を含む）	8,000	50,000	0	0
地質標本	22,750	4,550	0	0
夾炭層標本	2,000	0	5	0
岩石標本	11,700	0	0	0
アフリカ及びチベット海外学術調査資料	50	2,450	0	0
鉱物標本	39,000	2,700	0	0
鉱石標本	14,700	0	0	0
化石標本	71,100	14,000	0	0
深海底熱水試料	0	0	5	25
環太平洋地磁気ネットワークデータ	54	0	0	0
(小計)	169,354	73,700	10	25
医学研究院				
法医学、犯罪学、人類遺伝学関係標本	10	0	10	0
人体及び動物の解剖模型標本	0	139	0	0
(小計)	10	139	10	0
工学研究院				
資源工学及び材料工学関連標本	2,433	0	0	0
(小計)	2,433	0	0	0
システム情報科学研究院				
機械翻訳実験機KT-1	1	0	0	0
(小計)	1	0	0	0
農学研究院				
魚類標本（内田コレクション）	0	0	30,000	700,000
魚類標本（水産生物環境）	0	0	0	100
昆虫標本	3,000,000	1,000,000	10,000	20,000
南洋植物さく葉標本（金平コレクション）	17,040	0	0	0
植物標本（中島コレクション）	7,000	1,300	0	0
植物標本（植物生産生理）	10,000	0	0	0
宮崎演習林植物さく葉標本・材鑑標本	331	0	5	0
海藻類押し葉標本	2,000	3,000	0	0
イネの遺伝子資源（実験系統種子）	1,373	3,000	0	0
在来農具	0	100	0	0
(小計)	3,037,744	1,007,400	40,005	720,100
全学合計	3,273,768	1,891,424	40,075	722,125

本アンケート調査は11月5日に開かれました第1回資料部主任会議で行うことが要望されたもので、総合研究博物館が元岡地区に移転し博物館の建物ができた際、現在管理されている部局が博物館での収蔵を希望される標本について行っています。ここにあげられていない標本につきましてもさらに調査を行い、移転に際しできるだけ適切な資料の収蔵ができるように努めていきたいと考えています。

博物館の組織(つづき)

研究部

一次資料研究系：教授 岩永省三、助教授 中牟田義博、助手 楠本美智子
分析技術開発系：教授 松隈明彦、助教授 中西哲也
開示研究系：助教授 宮崎克典、助手 小島弘昭、助手 三島美佐子

資料部

自然史部門

動物・医動物分野

姫野國祐(医)、毛利孝之(農)、古賀正崇(医)、飯田弘(農)

植物分野

矢原徹一(理)、井上 晋(農)、安井 秀(農)、川口栄男(農)、三島美佐子(博)

昆虫分野

寫 洪(比文)、高木正見(農)、湯川淳一(農)、矢田 脩(比文)、荒谷邦雄(比文)、多田内 修(農)、上野高敏(農)、緒方一夫(熱農)、紙谷聡志(農)、津田みどり(農)、小島弘昭(博)

水生生物分野

松井誠一(農)、川口栄男(農)、野島 哲(理)、森 敬介(理)、望岡典隆(農)

地史古生物分野

酒井治孝(比文)、佐野弘好(理)、高橋孝三(理)、松隈明彦(博)、西 弘嗣(比文)、鹿島 薫(理)、下山正一(理)、坂井 卓(理)

岩石分野

柳 哮(理)、石田清隆(比文)、池田 剛(理)、中牟田義博(博)、宮本知治(理)、三木 孝(理)

鉱物分野

島田允堯(理)、青木義和(理)、石田清隆(比文)、石橋純一郎(理)、中村智樹(理)、中牟田義博(博)、桑原義博(比文)、上原誠一郎(理)、本村慶信(理)

人類先史分野

田中良之(比文)、中橋孝博(比文)、鈴木 陽(歯)

有機化石分野

村江達士(理)、山内敬明(理)、北島富美雄(理)

地球電磁気分野： 湯元清文(理)

生薬分野： 田中宏幸(薬)

文化史部門

考古分野

岩永省三(博)、溝口孝司(比文)

記録史料分野

安藤 保(人文)、服部英雄(比文)、有馬 学(比文)、吉田昌彦(比文)、植田信廣(法)、西村重雄(法)、田北廣道(経)、荻野喜弘(経)、東定宣昌(石炭)、佐伯弘次(人文)、中野 等(比文)、高野信治(比文)、熊野直樹(法)、宮崎克則(博)、楠本美智子(博)

建築史分野： 山野善郎(人環)

技術史部門

資源・素材分野

福島久哲(工)、渡邊公一郎(工)、中西哲也(博)

名簿中太字は分野主任を、かつこ内は所属を表します。所属の省略は以下のようです。

人文：人文科学研究院、比文：比較社会文化研究院、人環：人間環境学研究院、法：法学研究院、経：経済学研究院、理：理学研究院、医：医学研究院、歯：歯学研究院、薬：薬学研究院、工：工学研究院、農：農学研究院、熱農：熱帯農学研究センター、石炭：石炭研究資料センター、博：総合研究博物館

フィールドミュージアム部

陸生生物：大賀祥治(農・演習林)、薛 孝夫(農・演習林)、大槻恭一(農・演習林)
水生生物：野島 哲(理学部)、森 敬介(理学部)

事務部

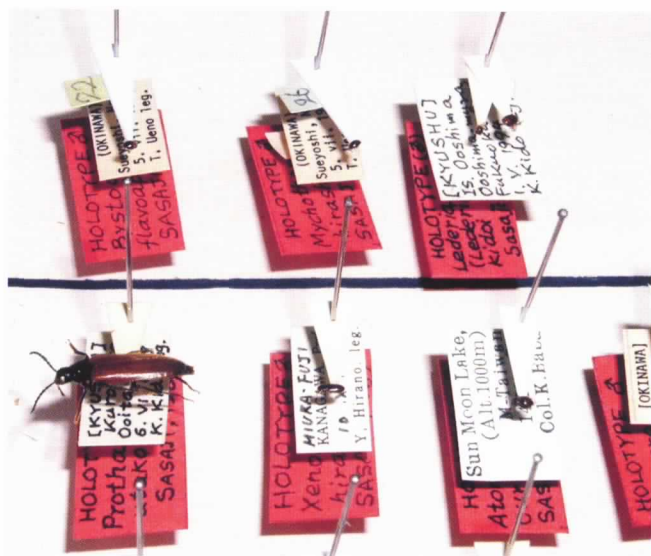
専門職員：城戸義典、事務補佐員：山本亜希子、研究支援推進員：杉本 健

協力研究員

相原安津夫(九州大学名誉教授)、平嶋義宏(九州大学名誉教授)、森本 桂(九州大学名誉教授)、三枝豊平(九州大学名誉教授)、木船悌嗣(福岡大学教授)

資料紹介

佐々治コレクション



甲虫類を中心とした昆虫標本。福井大学の佐々治寛之先生(現福井大学名誉教授)が長年収集してこられたもので、日本国内および東アジア各地の標本約6万点からなります。とくに、テントウムシなどのヒラタムシ上科の甲虫を多く含み、45種の完模式標本や多数の模式標本、同定標本が納められており、アジアの昆虫を研究する上で、重要なコレクションの一つとなっています。

完模式標本は農学研究院の昆虫学教室に、それ以外の標本は中央図書館4階の標本室に納められています。なお、完模式標本45種については、画像データベースとして、博物館のホームページからご覧いただけます。

模式標本とは？：世界で初めて新種として認識され、その発表時に使われた標本です。なかでも、完模式標本はその種を代表する個体で、公的な研究機関に永久的に保管される義務があります。

福岡植物研究会寄贈標本

1960年代から福岡植物研究会によって採集されてきた植物標本。総数約5万点。1993年に出版された「福岡県植物目録2」の証拠標本を含み、福岡県フロラの変遷を知る上で重要な資料の1つです。記念講堂3階などに保管していますが、現在整理中のため公開はしていません。



カワラサイコ(*Potentilla chinensis* Ser.)

バラ科キジムシロ属の多年草。日当たりの良い川原・砂地・道端を好む。花は6~8月で、黄色。本州~九州、東アジアに分布。比較的普通にみられていた植物だが、近年徐々に減りつつある。1952年に出版された中島一男著「福岡県植物目録」では「やや普通」であったのが、1975年に出版された福岡高等学校生物研究部会編「福岡県植物誌」では「やや稀」になってしまった。左の標本を採集した筒井氏によれば、福岡市近郊ではもはや稀にしか見られないという。

